

機密データ消去済みのHDDを

「さらに破く」ことがいかに大切か！

セキュリティレベルを物理的に担保することはもはや経営課題のひとつ

データ復旧サービスが充実している昨今、HDDの『原形』を保持したままの状態を『情報抹消』の完了を報告されてもお客様によっては、『それでもデータを復旧できてしまうのでは？』という不安をお持ちになります。磁気消去、加圧穿孔処理済みのHDDに更に碎く処理をすることで、セキュリティを万全にし、不安要素を排除する。それが、ひいては企業価値を守



代表取締役 竹下敏史

ることに繋がります。本来であれば、磁気消去と加圧穿孔処理の2工程を実施することでデータは消去されます。但し、一般的な産業廃棄物処理業者は、マニフェスト伝票の処理方法に『破碎』と記載してありながら、『処理前選別』と称して、再生可能な資源を事前に抜き取るという慣習がございます。これは、決して違法な行為ではありませんが、もし、**データ消去の作業漏れのあったHDDが存在した場合**、情報が入ったままの状態でありサイクル市場に原形のまま流通します。現実として、磁気消去の前後でHDDの外見は変わりません。そのため、消去作業の漏れを見逃す可能性は否定できません。その情報漏洩リスクを『ゼロ』にするために弊社では、磁気消去と物理破壊を実施済みのHDDといえども、さらに破碎処理を実施し、また、より安全な処理をすべく、国内メーカーの溶解炉に投入して、希土類（レアアース）のネオジム等を回収する処理方法でお客様の『不安』を限りなく『ゼロ』に近づけるサービスを提供しております。

— 都内唯一 破碎はタケンタだけ —



発生磁界 800kA/m (約 10,000Oe 相当) の「斜め磁化システム」を搭載した専用機器でHDDに磁気を通す

磁気を通す



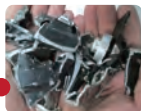
専用機器を使用してHDDに4カ所の穴をあける（加圧穿孔）

穴をあける



物理破壊+磁気消去に加え、リサイクル市場に出回る際の流通時のリスクを限りなく『ゼロ』に近づけるため、『HDD専用破碎機』を自社工場に設置し、HDDを細かくする破碎処理を実施します

HDD専用破碎機



データ消去（物理破壊+磁気消去+破碎）完了後のHDDといえども、より安全な処理をすべく、国内メーカーの溶解炉に投入して、希土類（レアアース）のネオジム等を回収する処理方法をご提案します

国内完結の溶解処理



重要 HDDの物理破壊と磁気消去で安心しているあなたへ

HDD専用破碎機で産業廃棄物処分量の許可を保有する**東京都内唯一**の処理施設

ヒューマンエラーゼロへ『磁気を通す』『穴をあける』だけでは終わらせない